

さんらいずにゅうす

学校だより

2025年 10月31日

10月号

日出学園小学校

校長 荻原 巖



日出祭を終えて

音楽科・日出祭実行委員 織間将

今年も無事に日出祭が終わりました。

忙殺の日々を乗り切り、秋の涼しさを感じながらマイペースに仕事をしている頃、いつもこの原稿執筆の依頼を受けます。（今年は何を書こう…。そろそろ他の先生方にこのスペースを譲ってもいいかな…）

…冗談はさておき、本題に入ります！

今年の日出祭を通して感じたことは、『指導者の要求度に応じて、子ども達はどこまでも伸びる』ということです。当たり前のことのようにですが、言うは易し行うは難し。「どこまで要求するか」というのは、いつも私の頭を悩ませる問題です。

なぜなら、子どもたちがある課題に直面して伸び悩んでいる時、指導したことが結果に上手く反映されないと、「今は気持ちが向かないのかな」とか「疲れているのかな」など、それっぽい理由をつけて『教師側があきらめてしまう』ことが往々にしてあるからです。（その判断が結果的には正しいこともあるから、これまた難しい！）

水が高きから低きに流れるがごとく、子ども達は自然と安易なほうへ流れていくものです。しかし、そこに指導者からの高いレベルの要求があると、子ども達は自分の持っている能力を最大限に駆使して、なんとかその要求に応えようとします。本心から「このままでいいや」と思っている子など一人もおらず、みんな成長したいのです。「つまらない」とか「嫌い」という言葉で『できない自分』を正当化する子もいますが、できるようになれば「楽しく」「好き」になるに決まっています。そのような自己実現をしたいがために「気持ちが乗らなくても」「多少疲れていても」学校という学びの場集まっている。来てくれている。

そんなふうに考えた方が、教師としての使命も明白になるような気がします。もし、そんな健気な子ども達を前に「こんなもんでいいか」と教師が高を括ってしまったら、とんでもなく無礼なことになりますから。

正直、いくら練習しても演奏がなかなか変わらないことがあり、「これがこの子達の限界か」とあきらめそうになった瞬間もありました。今となっては、その時あきらめそうになっていたのは『自分の教師としての限界』だったようにすら感じます。大事なことは、子ども達に対して常に誠実であることで、本気の指導というのは必ず実を結ぶのだと今回の日出祭で学ぶことができました。

最後になりましたが、日出祭が盛会のうちに終えることができましたのも、保護者の皆様の温かいご理解と多大なるご協力の賜物です。心より感謝申し上げます。

日出祭 フォトギャラリー



吹奏楽クラブ



低学年 図工



中学年 図工



高学年 図工



音楽クラブ



ダンスクラブ



書 写



文 芸



学芸会について 各学年より



1 年生

1年生は初めての日出祭に、「学芸会ってどんな感じなのかな?」と、イメージがわかぬまま劇や音楽の練習が始まりました。合奏、合唱の曲は1年生には少し難しいかなとも感じましたが、練習を重ねる度に磨きがかかり、1年生とは思えないほど発表になりました。劇も同様に、自分たちで話し合い、言い方や振り付けを考える中で素晴らしいものになりました。

本番を終えた子ども達は達成感でいっぱい。関わった職員も予想を超える出来栄に成長を感じ、胸が熱くなりました。



2 年生

2年生は、劇「ないた赤鬼」と合奏「ドレミの歌」、合唱「世界中の子どもたちが」を披露しました。劇は、2学期から毎日放課後に1時間ほど練習をこなし、本番を迎えました。表情豊かに大きな声で元気いっぱいに演じることができました。合奏と合唱は、主に音楽の授業内で練習をしました。本番が近くなると、各教室で毎日CDを使って歌の練習をしたり、メロディオンの練習をコモンスペースで担任と一緒にしたりしました。

本番の舞台に立った子どもたちは、練習の成果を発揮し自信を持った演奏ができました。



3 年生

劇「たべっ子どうぶつ」では、練習で意識していた大きな声と豊かな表現力が本番で見事に発揮されました。みんなで協力し、一つの目標に向かう大きな成長が見られました。合奏「運動会メドレー」は、リハーサルまで、それぞれのパートの音をひとつにそろえることに苦労しました。しかし、本番では心をつなげて、今までで一番の演奏となりました。合唱「今日から明日へ」では、ひとりひとりが笑顔で素敵な歌声を響かせてくれました。

練習の成果を存分に発揮し、子どもたちの大きな自信と達成感につながった一日となりました。



4 年生

4年生は「音楽を楽しむ」を合言葉に、合奏「ハロウィンメドレー」と合唱「あの日の船」を演奏しました。音楽を楽しむために自分にできる最大限の努力をしよう!と、何度も何度も繰り返し練習をする姿が印象的でした。合奏は楽器ごとに自分たちでリズムを考えたり、ハロウィンらしい音色を考えたり、子どもたちの工夫が光る演奏になりました。合唱ではソプラノとアルトのハーモニーを作り上げることに苦労しました。お互いの声を聴き、完璧な音よりも全力の音を目指し本番は心のこもった演奏をすることができました。



5 年生

5年生は、感動的な合唱と力強い合奏で会場を魅了しました。

合唱曲「この星に生まれて」では、地球や生命への深いメッセージを、心をつなげた美しいハーモニーに乗せて届けました。合奏曲「アフリカンシンフォニー」は、アフリカの雄大なサバンナを思わせるリズムカルで勇壮な曲です。力強くも繊細な音色がアリーナいっぱいに響き渡りました。

練習で培った粘り強さをと、持ち前の明るさを発揮し、本番では迫力ある演奏を見事に成功させました。



6 年生

6年生にとって小学校最後の学芸会。6年間の集大成ともいえる最後の学芸会の舞台で、これまで共に練習に励んできた仲間たちと一体感のある美しい歌声を響かせることを目指し、繰り返し練習に励んできました。また、今年の学芸会最後の演目をしめくくる最上級生として、観客席で見てくれている人たちも楽しくなる演奏ができないか、そんなパフォーマンスにも視野を広げました。

当日、楽しそうに演奏をする6年生の姿は、観客席にも届いたのかたくさんの笑顔と拍手が会場にあふれました。

